

大仙市一般会計等財務書類概要（平成30年度決算）

市のストック情報やコスト情報などの財政状況を明らかにするため、国の統一的な基準により作成した「一般会計等財務書類」の概要は次のとおりです。

貸借対照表（平成31年3月31日現在）

基準日時点における財政状態（資産額・負債額・純資産額）を表しています。

資産の部 〈これまで積み上げてきた資産額〉	負債の部 〈将来世代の負担額〉
固定資産 2,707億円 学校、道路など （有形固定資産 2,651億円） （無形固定資産 0億円） （投資その他の資産 56億円） 流動資産 51億円 財政調整基金、市税未収金など （流動資産のうち、資金 18億円）	固定負債 563億円 1年経過以降に償還が必要な地方債など 流動負債 60億円 1年以内に償還が必要な地方債など 負債の合計 623億円 純資産の部 〈過去及び現世代の負担額〉 純資産 2,135億円 市税、地方交付税、国県補助金など
資産の合計 2,758億円	負債及び純資産の合計 2,758億円

資産額2,758億円のうち、2,135億円（＝純資産）はこれまでの世代が負担し、残りの623億円（＝負債）は将来世代が負担することになります。

行政コスト計算書（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

1年間の行政活動のうち、経常的な行政サービスに係る費用（コスト）と収益を表しています。

経常行政コスト（①）	経常収益（②）
人にかかるコスト（業務費用） 65億円 職員給与費、退職手当等引当金繰入金（13.8%） 物にかかるコスト（業務費用） 178億円 物件費、維持補修費、減価償却費（37.8%） その他のコスト（業務費用） 8億円 地方債の支払利息など（1.7%） 移転支出的なコスト（移転費用） 220億円 社会保障給付（生活保護費等）など（46.6%） 合 計 471億円	使用料及び手数料等 15億円 純経常行政コスト（①－②＝③） 市税・地方交付税等で賄われた金額 456億円 臨時損失及び利益 （損失）災害復旧事業費等（④） 23億円 （利益）資産売却益等（⑤） 0億円 純行政コスト（③＋④－⑤） 純経常行政コストから臨時に発生したものを差し引いた金額 479億円

経常行政コスト471億円に対し、市が実施する事業の受益者負担は15億円となっています。行政コストの多くが受益者負担以外の市税や地方交付税などで賄われています。

資金収支計算書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

1年間の行政活動における資金の収支を3つの性質に区分して表しています。

期首資金残高（①）	16億円
業務活動収支（②）	10億円
（支出：人件費、社会保障給付など 390億円）	
（収入：市税、使用料及び手数料など 400億円）	
投資活動収支（③）	△10億円
（支出：公共施設等整備費、積立金など 37億円）	
（収入：国県等補助金、基金繰入金など 27億円）	
財務活動収支（④）	△2億円
本年度資金収支額（⑤）	△2億円
本年度末歳計外現金残高（⑥）	4億円
期末現金預金残高（①＋②＋③＋④＋⑥）	18億円

業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支による本年度資金収支額および歳計外現金残高を合わせた期末現金預金残高は期首資金残高と比べ2億円の増となっています。

純資産変動計算書

（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

1年間で純資産がどのように変動したかを表しています。

期首純資産残高	2,223億円
純行政コスト	△479億円
税収等	297億円
国県等補助金	98億円
資産評価額、無償所管換等	△4億円
期末純資産残高	2,135億円

純行政コストが減少したものの、税収や国県等補助金が減少したため期末純資産残高は2,135億円となっています。

※上記の矢印は、財務書類4表の相互関係を表したものです。

